

第5学年 国語科学習指導案

平成27年11月13日(金)第5校時

授業者 児島 里美

1. 単元名

説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう

理由づけを明確にして説明しよう

2. 教材名 「天気を予想する」

「グラフや表を用いて書こう」

3. 指導の立場

「天気を予想する」は、児童にとって身近でありながら、その仕組みはよく知られていない天気予報を題材としている。前半は、天気予報が科学技術の進歩や国際協力によって支えられていることが科学データをもとに述べられている。後半は、科学データだけでは予想できない現象に触れ、人間の経験や知識の必要性について説明されている。科学技術の手法を有効に活用しながらも、自ら発見する天気の面白さや大切さを感じられるとよい。

小さな問いがあって答えがあり、また次の問いが生まれるということを三回繰り返す構成になっている。また、図や表、グラフ、写真といった資料を用いて説明をし、資料のレイアウトも文章に対応するように構成されており、筆者の考えもとらえやすい。したがって、それらの資料を用いることの効果や、取り入れた筆者の意図について読み取るのに適した教材であるといえる。

資料を用いることで、考えにより説得力を増すという点で、「グラフや表を用いて書こう」の学習に大きくつながってくる。そのため、「天気を予想する」で、資料の活用によって得られる効果を十分に読ませてから次の活動へとつなげていきたい。

説明の仕方については、5年生1学期の「生き物は円柱形」では、繰り返し使われている言葉、接続語、文章構成に着目して、要旨をとらえる学習をした。4年「アップとルーズで伝える」では、写真を用いて、アップとルーズを対比させて説明

するとよく伝わることを学習している。

児童は、筆者の説明の仕方の工夫を、「読みのかぎ」を参考にしながら、一人読みで考えることができる。また、その工夫の効果についてもグループ交流をすることで、考え、深めていくことができる。書くことに関しては、社会科の授業で資料から情報を読み取って書くことには意欲的である。資料に何が書かれているか、何が分かるかをいくつも書くことができる。しかし、意図的に資料を活用したり、構成を考えながら効果的に資料を使ったりする力は不十分である。

本単元では、「くらし」に関する説得力のある意見文を書くことを見通し、資料を提示している筆者の意図をとらえることを大きなねらいとする。そのためにまず、図や表、グラフ、写真のそれぞれのよさについて考え、資料の効果的な用い方について気付かせたい。また、読者に分かりやすいものにするためには、文章と資料を関連付けて伝える必要があるという、資料活用の際に大切な視点にも気付かせたい。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全14時間の単元指導計画である。第一次では、単元を貫く課題を知らせ、学習計画を立てる。第二次では、第三次の言語活動をするために、文章構成、図や表、グラフ、写真を用いることの効果や筆者の意図を考え、説明の工夫をとらえる。第三次では、それまでの学習を活かして、自分で「くらし」に関する意見文をつくる活動を位置付けた。

○研究内容2に関わって

交流の形態

深めの発問ではグループ交流を行う。構成のよさについて、たくさん意見を出し合って話し合うことを目的とする。

深めの発問

構成の工夫の効果について考えさせる。三つ目の問いが最後にくる構成の効果について気付かせ、筆者の意図を読み取らせる。

学習のまとめ

まとめは自分で書いていくようにする。つまり、知っている児童に対しては、キーワードを提示し、支援する。

5 . 単元指導計画

単元の指導目標

- 筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について考えをまとめて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読オ)
- 筆者が伝えたいことを考えながら読むことができる。(読ウ)
- 目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理するとともに、引用したり図表やグラフを用いたりするなど書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書くことができる。(書アウエ)
- 書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。(書力)

単元を貫く課題

班の仲間に「くらし」に関する説得力のある意見文を書くために、資料を用いた筆者の意図やその効果をとらえよう。

次	時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準（評価方法）
第一次	1	「天気を予想する」を読み、初発の感想をもつことができる。	1. 天気について知っていることを交流する。 2. 本時の課題を確認する。 「天気を予想する」を読んで、はじめの感想をもとう。 3. 教科書 p138～p145 までを音読し、はじめの感想をもつ。		【関】天気に関心を持ち、初発の感想を書くことができる。(発言・ノート)
	2	感想を交流し、学習計画を立てることができる。	1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の課題を確認する。 はじめの感想を交流し、学習計画を立てよう。 3. 単元名やリード文、感想をもとに単元を貫く課題と学習計画を立てる。 4. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	題名	【関】単元の見通しを持ち、学習計画を立てることができる。(ノート)
第二次	3	段落ごとに要旨をとらえ、小見出しをつけることができる。	1. 本時の課題を確認する。 段落ごとに要旨をとらえ、小見出しをつけよう。 2. 教科書 p138～p145 まで音読する。 3. 形式段落を確認し、意味段落に分ける。 4. 一人読みをする。 5. 全体交流をする。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	段落の中心となる言葉・文	【読】筆者の主張を読み取り、段落ごとに小見出しをつけることができる。(発言・ノート)
	4	写真や図、表と文章を対応させながら読む活動を通して、天気予報的中率が高くなった理由を読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 天気予報的中率が高くなった理由を読み取ろう。 2. 教科書～段落まで音読する。 3. 一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. まとめる。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	段落の中心となる言葉・文 つなぎ言葉 絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】天気予報的中率が高くなった理由を読み取ることができる。(発言・ノート)
	5	写真やグラフと文章を対応させながら読む活動を通して、天気の予想を難しくしている要因を読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 天気予報的中率、百パーセントがむずかしいと考える理由を読み取ろう。 2. 教科書～段落まで音読する。 3. 一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. まとめる。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	段落の中心となる言葉・文 つなぎ言葉 絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】天気の予想を難しくしている要因を読み取ることができる。(発言・ノート)
	6	突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てを読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てを読み取ろう。 2. 教科書～段落まで音読する。 3. 一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. まとめる。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	段落の中心となる言葉・文 つなぎ言葉 絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てを読み取ることができる。(発言・ノート)

	7	筆者が、表や写真、図、グラフを用いて説明していることや、文末表現、つなぎ言葉に着目して読み、筆者の説明の仕方の工夫を考え、その効果や意図に気づくことができる。	1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 2. 本時の課題を確認する。 自分の考えを分かりやすく伝えるための筆者の説明の仕方の工夫やその効果について考えよう。 3. 教科書 p138～p145 まで音読する。 4. 筆者の説明の仕方の工夫とその効果について読み取る。 5. 全体交流をする。 6. 考えを深める。《グループ》 7. まとめる。 8. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	終わりの言い方 事実と考えを区別する。 例：事実「～が分かります。」 考え「～と考えます。」 つなぎ言葉 絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】表や写真・図・グラフの引用や文末表現、つなぎ言葉に着目して読み、説明の仕方の工夫を考え、その効果や意図に気づくことができる。(発言・ノート)
	8 本時	三つの問いと答えの関連に着目し、文章の構成と筆者の説明の仕方の工夫を読み取ることができる。	1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の課題を確認する。 筆者の構成の工夫を読み取ろう。 3. 教科書 p138～p145 まで音読する。 4. 問いと答えを確認し、三つの関係について一人読みをする。 5. 全体交流をする。 6. 考えを深める。《グループ》 7. まとめる。 8. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	つなぎ言葉 段落と段落のつながり 三つの「問い」と「答え」が連続する。	【読】問いと答えという構成に気づき、構成の効果や筆者の意図を理解することができる。(発言・ノート)
第三次	9	教科書の例文を読み、意見文の書き方の見通しをもち、自分の考えを整理することができる。	1. 教科書 p152・153 を音読する。 2. 本時の課題を確認する。 「くらし」について、根拠をもって自分の考えを明確にしよう。 3. 「くらしやすさ」と「くらしにくさ」のどちらの立場で意見文を書くのかを決める。 4. なぜそう考えるか根拠を書きだす。 5. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。		【関】教科書の例文を読んで、意見文の書き方の見通しをもち、自分の考えを明確にすることができる。(ノート)
	10	整理した自分の考えを裏付けるために、どのように構成し、どのような資料を引用するとよいか考え選ぶことができる。	1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 2. 本時の課題を確認する。 読み手がなっとくできるような資料を集め、選ぼう。 3. パソコンや図書等から必要な資料を探す。 4. 資料を読み取り、実際にはどうなっているか確かめる。 5. どの資料を、どこで、どのように使うか決める。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。		【書】自分の意見を述べるために必要な資料を選ぶことができる。(ノート・観察)
	11	文章構成と必要な要素を理解し、何をどのような順序で書くか考えることができる。	1. 本時の課題を確認する。 何をどのような順序で書くか、構成を考えよう。 2. 教科書の例文を読み、文章の構成を理解する。 3. 「グラフや表を説明するとき」を読み、グラフや表を用いるときの留意点を確認する。 4. 何をどのような順序で書くか決めて、構成メモを作る。 5. 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	段落と段落のつながり	【書】説得力のある文章を書くための構成やその要素を理解して、何を、どの順序で書くかを決めることができる。(ノート)
	12 13	自分の考えを裏付ける資料を効果的に使いながら、意見文を書くことができる。	1. 本時の課題を確認する。 資料を使って、意見文を書こう。 2. 構成メモを参考にして、意見文を書く。 3. 書いたものを読み返し、推敲する。 4. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	終わりの言い方 段落の中心となる言葉・文 つなぎ言葉 段落と段落のつながり 絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【書】資料を効果的に使いながら、自分の考えを明確にして意見文を書くことができる。(ノート)
	14	文章の書き方、用いた資料について班の仲間と意見や感想を交流し、考えに説得力をもたせるための資料の用い方を理解することができる。	1. 本時の課題を確認する。 自分たちの意見文を班の中で読み合い、感想を伝え合おう。 2. 文章を読み合うときの観点について考える。 3. 文章を読み合い、意見や感想を伝え合う。 4. 単元の学習を振り返る。	終わりの言い方 段落の中心となる言葉・文 つなぎ言葉 段落と段落のつながり 絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【書】仲間の意見文を読み、優れた点を具体的に指摘することができる。(ノート・発言)

6. 本時の展開 (8 / 1 4)

(1) 本時のねらい

三つの問いと答えの関連に着目し、文章の構成と筆者の説明の仕方の工夫を読み取ることができる。

(2) 本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ【5分】	前時の学習内容から、本時の課題をつかむことができる。	1. 前時の内容を振り返る。 三つの問いと答えを確認する。 2. 本時の学習課題を確認する。 筆者の構成の工夫を読み取ろう。	・掲示物で確認しながら、前時までの学習を振り返る。
さぐる【24分】	着目する点をもとに、筆者が伝えたいこと、説明の仕方の工夫について読み取ることができる。	3. 教科書 p138 ~ p145 まで音読する。 4. 構成を確認し、その効果について一人読みをする。 【構成】 ・問い1 での中率が高くなったことが書かれていて、問い2 では、的中率が上がってもそれを 100 パーセントにするのは難しいと書かれているので、つながっている。 ・問い2 で難しいと言われていた突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てが問い3 に書かれているのでつながっている。 ・答えの中から次の問いが生まれていて、3つの内容がつながっている。 【効果】 ・内容を少しずつ理解しながら読み進めていけるので分かりやすい。 ・的中率が高くなったのに、どうして 100 パーセントではないのかと疑問に思い、考えながら読み進めていけるのでおもしろい。 5. 全体交流をする。	・個々のペースで読ませることで、内容に着目させる。 ・小見出しを活用することで、まとまりをとらえやすくする。 ・読みのかぎを提示して、筆者の工夫を読み取る手がかかりとする。(と) ・「では」「それでは」というつなぎ言葉から、答えと次の問いのつながりを読み取らせる。
深める【8分】	筆者の工夫のよさに気づくことができる。	6. 考えを深める。 三つ目の問いが最後にくる構成にすると、どんなよさがあるのだろう。 ・科学の手法は大切だが、それだけでは天気を理解したとは言えないことを伝えるため。 ・自ら天気を予想することの大切さを一番伝えたかったから。 →最後に行くにつれ、筆者の主張に近づく。	・問いの順番を入れ替えてもよいか問い、考え深めさせる。 ・筆者の気持ちも考えさせながら、意図を読み取らせる。
まとめる【8分】	筆者の工夫についてそのよさに気づき、自分に取り入れようとしている。	7. キーワードをもとに本時のまとめをする。 筆者は、前の問いから、次の問いを生み出し、三つの問いと答えを積み重ねながら自分の主張に近づけていくように工夫している。 8. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 三次で活かしたいこと、もっと考えてみたいことなど本時の振り返りをする。	・まとめでは、つまりしている児童に□の部分で提示し、支援する。 評価規準・評価方法 【読むこと】 問いと答えという構成に気づき、構成の効果や筆者の意図を理解することができる。(発言・ノート)

